健康生きがい 福祉都市

在宅福祉サービス さらに充実

高齢化社会に備え福祉サービス、生きがい対策をさらに充実

高齢化社会の到来に備え在宅福祉サービスを一層充実。新規事業として、寝たきりまたは痴ほう性老人と同居の介護者に年額六万円の介護手当を支給します。

寝たきり老人家庭などへ派遣する家庭奉仕員は現在三十一人ですが、これを二十四人増員し五十五人とします。

在宅介護を支援するため「在宅介護相談センター」を設置、福祉機器の展示や介護の体験実習もできる予定です。

このほかの在宅サービスでも、寝具の無料乾燥実施や巡回入浴車の派遣、老人電話相談センターの充実、日常生活用具の給付や貸与、老人施設を利用したデイサービスなど、引き続き本人や介護者へのきめ細かなサービスを行います。

鍋潟地区に 特別養護老人ホーム

お年寄りの生きがい対策もさらに充実。老人憩いの家「阿賀浜荘」を改築するほか、憩いの家などで行っている教養講座、民謡教室を拡充します。また、公衆浴場の無料入浴券交付、ゲートボール場造成費への助成も引き続き実施。

老人居室整備費金も拡充。四億三千三百万円を計上しました。

鍋潟地区に予定されている特別養護老人ホームの建設補助に一億一千八百万円を計上。このホームは痴ほう性老人二十人を含め定員百人で、短期入所専用室（二十床）とデイ・サービスセンターが併設される計画です。

桃山、吉田の 2保育園を改築

児童福祉では、市立桃山、私立吉田保育園を改築します。桃山保育園は定員九十人、鉄筋コンクリート造り二階建て、延べ床面積約六百六十平方㍍、吉田保育園は無認可から認可の保育園とし、定員六十人、鉄筋コンクリート造り三階建て、延べ床面積約五百三十平方㍍となります。

市立保育園のゼロ歳児保育は従来の十二施設から十六へと拡充。

保育料は新年度も引き続き父母負担を軽減します。保育料の徴収基準を国よりも低く実施、軽減率は一六・八％（前年度当初一五・六％）に達する見込みで、このための必要額三億円を計上。

学童保育ひまわりクラブは江南、丸山の二小学校区に新設。いずれも定員四十人で、木造平屋建て、広さ百平方㍍の規模の予定です。

心身障害者の生活圏拡大にタクシー基本料金を助成

障害者福祉では、普通小型タクシーの基本料金（四百八十円）を新たに助成、心身障害者の生活圏拡大、社会参加の促進を図ります。利用対象は身障手帳一、二級と三級の一部および療育手帳「A」判定所持者で、利用回数は年間二十四回を限度。

低所得の重度身障者単身世帯には、「あんしん電話」を二十台設置します。

心身障害者の小規模施設については運営費を助成。指導員報酬、施設賃借料の助成額を増額します。

在宅の障害者が通所して創作活動や日常生活訓練、レクリエーションを行うデイ・サービス事業では、今までの市社会福祉センター分のほか、新たに有明福祉会館を加え、利用者の利便に配慮します。

障害者用住宅整備資金の貸付け限度額は、十万円引き上げて二百七十万円とします。

大腸がん検診全市に拡大
予防接種も充実

検診で年に一度の健康チェックを

成人病対策としては、基本健康診査の市単独の検査項目に、新たに白血球数検査を加え、各種の疾患の早期発見に役立てます。

がん対策としては、モデル地区で実施していた大腸がん検診を全市に拡大。四十歳以上を対象にヒトヘモグロビンの便潜血検査を実施します。また、胃のレントゲン直接撮影の対象年齢に新たに六十六歳と六十七歳を加えます。子宮がん検診では、子宮体部検診を新たに実施します。

なお、市では肺がん検診を合わせた五つの検診（健診）の無料対象年齢を、いずれも六十歳以上としており、国の市民負担の軽減を図っています。

曽野木地区 保健センターを建設

保健衛生対策としては、地域に応じたきめ細かなサービスのため、曽野木地区保健センターを建設します。

難病対策では、患者と家族の支援のため、保健婦の訪問指導や介護器具の貸し出しを始めます。

補助金として、老人保健施設の建設費に二千五百万円を補助。市医師会准看護学校の運営費にも新たに助成します。

医療関係では、市民病院の駐車場を拡張し、来院者の増加に対応するほか、六億円で医療機器を充実し、高度医療の需要に備えます。

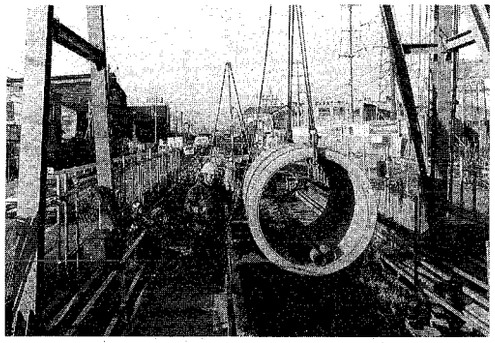
土曜の夜も 急患センター開設

救急医療対策としては、市医師会の休日急患診療センターを、新たに土曜日の夜七時から十時まで開設します。また、テレホンサービスにより、土曜午後開業診療所と病院群輪番制事業の当番病院を公開し、体制の充実を図ります。

予防衛生対策では、三種混合予防接種（百日ぜき、ジフテリア、破傷風）の対象年齢を六カ月児から四歳児までの範囲に拡大するほか、新三種混合（麻しん・風しん・おたふくかぜ）ワクチンの希望者への接種を新たに始めます。

下水道普及率を毎年2％アップへ
雨水対策にも配慮

水と緑 環境都市


膨大な費用と長い年月のかかる下水道建設

公共下水道の建設には前年度比一八・一％増の百二十二億二千万円を計上。これまで年一％程度であった普及率を、新年度から毎年二％アップを図っていきます。

下水道の根幹施設である幹線管渠の築造は全体で十四・九㌔で、坂井輪・浦山・愛宕・小張木・牡丹山などの幹線整備を進めます。

下水道の処理開始に向けての面的整備については、新石山・東中野山・中山・有楽などの処理分区で整備を進め、枝線整備の合計は三十九・二㌔となります。

下水処理場の整備では、関屋分水以西の処理開始に向け中部下水処理場の増設工事を行います。ポンプ場整備では坂井輪と大曲ポンプ場を、大曲は雨水用ポンプ場で、新年度から本体工事にかかり、四年度の完成を目指します。

島見地区で行われている特定環境保全公共下水道建設は、島見浄化センターを完成させ十月には試運転、新年度内に一部処理を開始します。

また、雨水対策として都市排水応急対策事業に六億二千八百万円を計上。排水管の布設・改修のほか、急激な雨水流出を抑制するため、学校・公園など公共施設の中に雨の一時貯留・浸透施設を五カ所設置します。そのほかにも新潟島、山の下、木戸、下所地区を対象にした抜本的な雨水排除改善対策の調査に取りかかります。

豊かな自然を生かし 佐潟に“あやめの里”

公園整備には九億七千七百万円を投入し、市民の憩いの場、子どもの遊び場の確保充実に努めます。

公園整備の新規事業としては、青山海浜公園と太夫浜第三公園の事業着手。継続事業として白山公園の改修、山の下海浜公園の用地買収、信濃川リバーサイド緑地の植栽などがあります。

都心部の社整備事業では、万代公園の整備と東公園の調査設計に着手します。また、水辺と緑が調和した潤いとふれあいのある水辺空間を創造しようと、坂井輪を流れる西川の緑地計画調査を実施するほか、島屋野潟南部開発計画の一環として、国際・文化教育ゾーン内で国際交流型公園の計画調査を実施します。

緑化推進では、佐潟の豊かな自然を生かしながら、緑と自然保護に対する理解を深めてもらうため佐潟公園にあやめなど七千株を植栽する、「あやめの里」づくりを実施。このほかまちの中の緑化などをテーマに、都市緑化推進計画調査を引き続き行います。

「あやめの里」が作られる自然豊かな佐潟

進む国際交流

英国ハル市から親善使節団

英語版「暮らしのガイド」を作成し、外国人への利便を図ります（国際友好会館）

国際交流、国際親善については新年度も姉妹・友好都市との交流を軸に展開。特に今年は米国ガルベストン市、ソ連ハバロフスク市とそれぞれ姉妹都市の提携をしてから二十五周年にあたるため、親善使節団の受け入れや派遣、記念祝賀会を行います。日本語ハルピン市からは友好代表団や語学研修生を受け入れます。

昨年、一気に高まったソ連ウラジオストクとの対岸交流を続けるため新年度も使節団を派遣します。

ロンドン、リバプールに次ぐ英国第三の港湾都市で、新潟市と交流を深めてきたキングストン・アポン・ハル市からは四月に初めて使節団が来港します。

市内在住の外国人のために英語版の「暮らしのガイド」を新たに作成、生活情報を提供します。

青山新火葬場 建設に着手

環境衛生関係では、平成三年度完成をめざし、新火葬場の建設に着手します。二カ年の総工費は三十一億円で、建設地は現在の青山火葬場の裏手の二万平方㍍。建物は現在の七・五倍の延べ四千五百平方㍍で、炉も現在の六基から十五基となります。

食肉センターは、施設の老朽化と、処理能力向上に対応するため、移転新築します。新年度は現在の六倍近い四万一千平方㍍の用地を取得、実施設計と造成工事を行います。

清掃関係では、資源の再利用とごみの減量化などのため、「空きびんポスト方式」による拠点回収を実施します。

防災無線で 緊急情報を提供

交通安全・防災対策では、津波の緊急情報や遊泳禁止情報を海岸や河口に放送する、大規模な防災行政同報無線を設置、防災講演会、交通安全シンポジウムなどを開催し、市民の意識の啓発を図ります。また、自治・町内会の防犯灯設置費助成額を引き上げます。

消防行政では、消防活動の迅速、円滑化を図るため、長年使用した消防車両の更新などを行い、消防力の強化に努めていきます。

市営住宅 石山団地で 商店街用地分譲

このほか、石山団地内で商店街用地の分譲を行い、便利で快適な街となるよう整備していきます。

公営住宅に対する入居需要に応えるため十四億六千三百万円を計上。

新規着工としては、石山団地で十二階建ての高層一棟六十六戸を建設。船江町団地では、中層の三階建て三棟の三十六戸を建設します。

継続分としては、石山団地の八十戸と船江町団地の六十六戸の合計百四十六戸の新年度内完成を目指します。

このほか、石山団地内の公園整備、学校施設の改修など施設面での教育環境を整えていく内容となっています。

水道局 内野配水場を改良

水道局の総事業費は百二十二億四千万円で、前年比八・九％の増となっています。

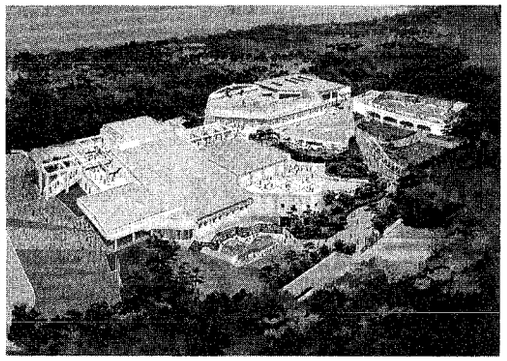
需要増に備えた第五回拡張事業では、阿賀野川浄水場の増設、竹尾配水場の建設などで、竹尾配水場の建設は順調に進み来年三月には通水の見込みです。

新規事業では、内野配水場施設改良事業に八千四百万円などの改良を行い、内野町を中心とした西部一帯への安定供給を図ろうというもので三カ年計画となります。

今年十月に水道創設八十周年を迎えるにあたり、記念式典、記念行事、八十年史の発刊などの記念行事を行います。

豊かな心 国際文化都市

7月に新水族館 “マリンピア日本海”がオープン
夏休みには子どもたちを無料招待


7月オープンする新水族館（完成予想図）

文化面では、待望の新水族館“マリンピア日本海”を完成させ、七月下旬にオープンさせます。開館記念として市内の小中学生、園児などへの夏休みのプレゼントとして無料招待を行います。

また、現郷土資料館が手狭で重要文化財という制約もあることから、現郷土資料館を充実、発展させた新しい施設として新郷土資料館（仮称）を建設するための基本設計に入っていきます。

小中学生の学力向上 モデル校で実践研究

学校教育では、小中学校の児童・生徒の学力を向上させるため、小学校十校、中学校五校で、学力向上のための実践的研究を行っていきます。

また、平成五年度から中学校の技術家庭科に「情報基礎」が新設されることから、指定中学校四校に各二十一台、各中学校に一台のコンピューターを設置し、導入校の拡大を図りながら、コンピューター教育の推進を図っていきます。

このほか、昭和六十二年からモデル校を設け研究されていた性教育の手引書の作成や、明治から昭和三十年まで編さんを終わっている「新潟市義務教育史」の“昭和編”を発刊していきます。

学校保健については、耳鼻咽喉科、眼科の専門校医を増員し、児童生徒の健康管理の充実に努めていくもの。

私学振興では、私立幼稚園父母負担軽減のため、助成額の増額も図っていきます。

中央図書館建設構想も 策定に向け始動

社会教育関係では、生涯学習社会の中核的施設の一つとして要望が高まっている中央図書館建設構想の策定に向け、調査検討を開始します。

また施設整備では、前年に着工した東新潟総合文化センター（仮称）の建設工事を進めていくほか、大畑少年センターの宿泊設備、研修設備の増設を行い、機能充実を図っていきます。

ソフト面では、今後の生涯学習の指針となる生涯学習基本計画を十二月完成を目標に検討を進めるほか、青年の仲間づくり・活動の活発化を促進する日本海夕日クルージングの開催、中国の友好都市ハルビン市との青年交流事業などを行っていきます。

江東・北地区に スポーツ施設用地取得

西海岸市営プールの耐久調査も実施
（写真はレディース・スイミング・カーニバル）

スポーツ関係では、新たに陸上競技場内にスポーツ健康相談コーナーを設け、コンピューターシステムを導入したきめ細かな体力診断や専門医によるスポーツ医事相談を学校施設関係では、将来、過大規模校となることが予測される笹口小学校を分離するため、第二笹口小学校（仮称）の建設を着手。校舎の整備は、栄小学校の全面改築に着手するほか、赤塚小学校、大淵小学校、潟川中学校の増改築を行っていきます。大規模改造は、湊・新潟・南万代の各小学校と沼垂高校。また順次整備を進めている中学校の武道場建設は、山の下、上山・両川の三中学校。老朽化したプールの改築は、沼垂・太夫浜・太郎代の三小学校となっています。さらに余裕教室の有効利用を図ろうと、白山小学校に「集いの木の部屋」を、東中野山小学校に和室をそれぞれ設けていきます。

第2笹中小（仮称）の建設に着手

英語版「暮らしのガイド」を作成し、外国人への利便を図ります（国際友好会館）